資料

北海道におけるマダニ咬着 7 例

宮 本 健 司

旭川医科大学寄生虫学教室

(〒078-11 北海道旭川市西神楽 4 線 5 号 3-11)

(受領: 1982 年 6 月 3 日)

Seven cases of human infestation
with ixodid ticks in Hokkaido

Kenji MIYAMOTO

Department of Parasitology, Asahikawa
Medical College, Asahikawa
078-11, Japan

人体マダニ咬着例は近年各地から多数の報告がみられる。しかし北海道では Ogura and Takada (1927) により 2 例が報告されて以来、現在までの 55 年間に合計 10 例の症例報告があるにすぎない (服部・西東, 1978; 岩重, 1982; 木村ら, 1974; 小林ら, 1981; Ogura and Takada, 1927; 山口・高田, 1981)。著者は 1980 年以来、おもに旭川市周辺でマダニの咬着を受けた 7 例を経験したので報告する。

症例 1. 43 歳, 女。左肩甲骨棘下窩部寄生。咬着部の軽度の疼痛と搔痒感で虫体確認。咬着を受けた場所, 旭川市神居古潭。日時, 1980 年 6 月 29 日 (13:00)。除去月日, 同日 19:00。著者によりダニをクロロホルムで麻酔後ピンセットで静かに抜除。口下片を含む完全個体を回収。患部に抗ヒスタミン合剤軟膏塗布。咬着部の赤紫色の沈着色素は 1 週間後消失完全治癒。(本症例は第 27 回衛生動物学会北日本支部大会で発表した。)

症例 2. 33 歳, 男。左鼠径部寄生。患部搔痒感で虫体確認。咬着を受けた場所, 上川郡愛山溪 (昆虫採集時)。日時, 1981 年 6 月 14 日。除去月日, 6 月 17 日。医師により虫体を皮膚片とともに切除。

症例 3. 55 歳, 男。右乳頭下部と両前腕内面の 3 カ所にダニ咬着を入浴時確認。咬着を受けた場所, 層雲峡大雪山系 (登山時)。日時, 1981 年 6 月中旬。除去月日, 6 月 27 日。医師により虫体を皮膚片とともに切除。両前腕部の 2 カ所は患者が入浴時 (除去前日) 体部を抜除し、顎体部のみ残留, 乳頭部からは完全個体を回収。

症例 4. 78 歳, 女。右後頭部下部。咬着を受けた場

所, 上川郡東川町 (山菜取りに入山するとき)。日時, 1981 年 6 月中旬。除去月日, 約 1 週間後入浴時に膨大した“イボ”を除去しようと触れたとき脱落し, 患者はダニと確認。プラスチック小容器に入れ保存。同年, 8 月 26 日著者が虫体を確認。ダニは生存しており産卵がみられた。同患者は 1980 年 6 月にも右乳頭下部にダニ咬着を受け, 病院で除去したという。

症例 5. 7 歳, 男。頭頂部。咬着を受けた場所, 富良野市内 (山菜取りに入山するとき)。日時, 1982 年 5 月中旬 (除去日より約 5 日前)。除去月日, 1982 年 5 月 27 日。医師が虫体に触れると離脱。口下片を含む完全個体を回収。なお母親は最初“イボ”と思い患部を糸でしばった。

症例 6. 57 歳, 男。左前腕内面。咬着を受けた場所, 富良野市山部の山林 (探鳥会)。日時, 1982 年 5 月 30 日。除去月日, 同日 12:30。休息 30 分後患部に搔痒を感じ 1 匹の虫体寄生を発見。ただちに患者自身が抜除。口下片を含む完全個体回収。その他, 被服上より未吸血ダニ 2 匹回収。

症例 7. 22 歳, 男。左腰部。咬着を受けた場所, 江別市野幌自然公園。日時, 1982 年 6 月 6 日 12:00。患部に搔痒を感じ, 同日 23:00 虫体寄生を確認。除去月日, 6 月 7 日。医師により虫体を皮膚片とともに切除。

ダニの形態。 未吸血および飽血した個体の顎体部を含む体長は 3.0~9.0 mm である。肛門溝は逆 U 字型, 第 1 脚基節内棘先端は鋭く, 第 2 脚基節の 1/3 に達する。気門は類円形, 背板は卵形, 顎体部耳状体は膨隆部として認める。以上の形態的特徴から 7 例のマダニはすべて *Ixodes persulcatus* Schulze, 1930 シュルツェマダニ雌と同定した。なお症例 1 のダニは埼玉医大山口 昇助教授により本種と確認された。

北海道ではこれまで 10 例のマダニ咬着例が知られていたが, 7 例を追加して計 17 例となった。マダニの種類としては *I. persulcatus* 12 例, *I. ovatus* Neuman 3 例, *I. nipponensis* Kitaoka and Saito 1 例, *I. ricinus* Neuman 1 例と *I. persulcatus* が人体咬着の優占種であった。なお *I. ricinus* は Ogura and Takada (1927) により報告された例で, 現在その分布は否定されているので (山口, 1977), おそらく *I. persulcatus* であったものと推定される。また咬着時期は 5 月 (下旬) 2 例, 6 月 7 例, 7 月 3 例, 8 月 1 例, 9 月 2 例, 不明 2 例で 6 月の症例が最も多かった。この原因として, 北海道は本州と異なり 6 月に人びとは種々の理由でマダニ生息地に最も多く出かける結果と推定される。

マダニ咬着により媒介される疾病として, わが国では野兎病やピロプラズマ症などが知られる。前者はおもに

キチマダニ (*Haemaphysalis flava* Neuman) により媒介されるが, *I. persulcatus* もその可能性をもつ。北海道ではこれまで3名の患者が報告されている (唐島田ら, 1968; 桑原ら, 1959)。後者はフタトゲチマダニ (*H. longicornis*) により家畜の被害が大きい。人体ピロプラズマ症の最初の報告はユーゴスラビアで33歳の男性が発病8日目に死亡した例であった (Skrabalo and Deanovic, 1957)。その後アメリカやヨーロッパにおいて人体感染例, 死亡例の報告が見られるので (Ruebush II, 1980; Garnham, 1980), 今後わが国でも人畜共通感染症の観点から, ダニ咬着例につき十分留意する必要がある。

終わりにダニの同定および文献についてご教示いただいた埼玉医科大学寄生虫学教室山口 昇助教授, また症例の発表に協力いただいた本学の土井陸雄助教授, 河原剛一助手に深謝します。

引用文献

- Garnham, P. C. C. (1980): Human babesiosis European aspects. *Trans. R. Soc. Trop. Med. Hyg.*, **74**(2): 153-155.
- 服部哇作, 西東敏雄(1978): 市街地におけるシュルツェマダニ (*Ixodes persulcatus*) の乳児刺咬例. *衛生動物*, **29**(1): 50.
- 岩重 毅(1982): マダニの皮膚寄生例. 日本皮膚科学会第529回東京地方会, プログラム 5.
- 唐島田 隆, 飯田広夫, 沢田亮三, 笹川勝次(1968): 北海道に発生した野兎病について. 北海道立衛生研究所報, **18**: 8-9.
- 木村哲明, 池沢善郎, 中嶋 弘, 樋口光弘, 山本久(1974): マダニ症. 日本皮膚科学会雑誌, **84** (臨時増刊号): 125-126.
- 小林みどり, 斉藤一義, 亀田叔子, 川村太郎, 池田重雄, 山口 昇(1981): マダニ皮膚寄生の1例.

皮膚科の臨床, **23**(13): 1797-1800.

桑原麟児, 遠藤 清, 浜本央雄, 古本 博, 時任旭, 清水 敏, 塚田正勝, 豊城 孝(1959): 北海道道南地帯に於ける野兎病の疫学的研究. 北方産業衛生, **20**: 115-120.

Ogura, K. and K. Takada (1927): The ticks parasitic on cattle and horses. *J. Coll. Agric., Hokkaido Imperial Univ.*, **18**(4): 199-206.

Ruebush, T. K. II (1980): Human babesiosis in North America. *Trans. R. Soc. Trop. Med. Hyg.*, **74**(2): 149-152.

Skrabalo, Z. and Z. Deanovic (1957): Piroplasmosis in man. Report on a case. *Docu. Med. Geogr. Trop.*, **9**: 11-16.

山口 昇(1977): 日本産マダニ上科の検索. ダニ学の進歩(佐々 学・青木淳一編), pp.451-472, 北隆館, 東京.

山口 昇, 高田伸弘(1981): マダニ類による人体刺咬39例. *衛生動物*, **32**(1): 86-89.

Summary

Including the first two cases of human infestation with ixodid ticks that were reported by Ogura and Takada (1925) in Hokkaido, a total of 10 cases have been reported until the present time.

The author adds the other 7 cases of human infestation with females of *Ixodes persulcatus* Schulze: case 1, left scapula; case 2, left inguen; case 3, lower part of right nipple on breast; case 4, lower part of right occipital region; case 5, parietal region; case 6, inside of left forearm; case 7, left side of waist. Tick species found from these 17 cases were 12 *Ixodes persulcatus*, 3 *I. ovatus*, 1 *I. nipponensis* (?), 1 *I. ricinus* (?).

Of these 17 cases, 2 cases were found in late May, 7 cases in June, 3 cases in July, 1 case in August and 2 cases in September; 2 cases were unknown of their month of occurrence.